

令和3年度宮代町廃棄物処理検討委員会 第6回会議録

1 日時・場所

令和3年10月21日（木）14：30～16：30

すてっぷ宮代 多目的室

2 出席者

審議会委員：13名出席

両宮会長、吉田副会長、小島委員、小林委員、小室委員、式田委員、
長倉委員、神田委員、小矢島委員、山根委員、唐澤委員、須藤委員、横尾委員

事務局

町民生活課：吉永課長、山崎副課長、小林主幹、田邊主査、三反崎主事
久喜宮代衛生組合：鈴木課長（業務課）、佐藤課長（総務課）

傍聴者 1名

3 開会

4 会長挨拶

5 議題

（1） 前回会議の振り返り

・ 前回までの会議振り返りと新炉について小林主幹から説明

小林主幹：前回まで、部分答申の検討ということで、久喜市に宮代町の考えを伝えるための活発な議論をしていただきました。その後、宮代町として町長が最終的な考えをまとめたものを久喜市長にお伝えしたところです。そのうえで、久喜市において新しいごみ処理施設の準備が本格的に始まりました。9月から建設業者の募集が始まっており、規模が大きいものなので、業者の提案を受け付けて、内容を吟味しながらどの業者かを決めるという流れです。この募集にあたって、業者の入札資料となる業務要求水準書が公表されました。この要求水準書の中に、皆さんにご議論いただいた部分答申が反映されている形になっております。今後の動きですが、内容が多岐にわたりますので、正式に業者が決まるのは来年の7月です。その後には建設の準備・設計がはじまります。本格的な建設が始まるのは令和5年の途中からの予定です。大体3年間位をかけて、令和8年までの建設期間ということになります。この工事の概要としては、まずは焼却炉の規模ですが、以前お配りした資料にもあったとおり、処理能力が1日あたり155tの規模となります。これは2つの焼却炉を動かす形になります。これを1年間運用すると、

大体4万1,000tくらいの処理をする施設です。今、宮代町は1万t位のごみを出していますので、残りの3万tが久喜市のごみということになると思います。あとはトピックとして、リサイクル工房が設置されます。大きさは200㎡、60坪位でしょうか。まだ使えそうな家具等の粗大ごみを直して、それを再販売するという工房も設定されています。あとは既に皆さまもご存じのとおりごみ処理の熱で発電する設備も設定されます。新炉建設については以上です。

・資料1について田邊主査から内容説明

(2) 施策検討シート（施策1（3））

・第5回委員会 資料1について三反崎主事から内容の説明

(3) 個別取り組み検討シート②

・資料2（表面）について田邊主査からの説明と、事前にご提出いただいた小矢島委員と式田委員からの内容説明。

小矢島委員：出前講座の利用促進ということで、考えた内容ですが、講座と講義とを分けて考えました。まずは、環境型社会を考えるというものです。どのようなステップで進んでいけば良いのかが判れば良いのではと思いました。例えば最終処分場の状況とか、廃棄物排出量の現状がどうなっているかの説明と動画等を用いてもらえれば良いのではと思います。あとは、講座ですので、自分たちのライフスタイルが変化していくのを、見える化してイメージが湧くような内容であれば良いのかなと思います。動画を作るのは大変かと思うので、YouTubeなどを利用してもらうと良いのではと思いました。

田邊主査：ご自身の出したごみがどうなるのか、動画を見ながらごみについて考える映像があると皆さまの頭に残りやすいかと思いますので、映像を使用した減量化推進の解説が出来たら良いのかなと思いました。続いての内容は式田委員からのご提案です。お願いします。

式田委員：自分のごみを出す時に、分別しています。では、そのごみがどこにどうやって持っていかれて、どのような過程で処理されているのか、それがリサイクルといえるのか。というようなことまでを考える。皆さんも家庭のごみを指定の日に出したら終わりだと思います。そうしますと、そのごみが、どこにどのように持っていかれて、どんな人の手を使って、どれだけの設備と費用を使って処理されているのかということに対しては、ほとんど無関心だと思います。私もこの委員会に出させてもらって、5千何百万という処理費用を聞いて、それは大変だと思いました。今は分別を間違えると、ごみは回収されずに置いていかれてしまいますか

ら。そういう面ではよく出来ているなと思います。プラスチックについてはテレビなどで、かなり厳しい内容を見ているので、町民も意識としては持っていると思いますけれど、具体的にプラスチックを減らす努力をしているかと聞かれると、買って来た容器がプラスチックだとどうしようもないですね。自分たちが減らせない。自分たちが出したごみが、どのように処理されているのかを詳しく分かりやすく、専門的な用語ではなく、解説する講座が出来たらよいなと思います。それから、プラスチックごみを燃やした熱を利用することもリサイクルの一種であることをこの委員会で初めて認識いたしました。ですから、こういうことが必要だというのを分かりやすく説明する講座を開催していただきたいなと思います。余談ですが、若い方は忙しくてなかなか出てこれないと思います。自分に対してのメリットがあまりないと思うでしょうね。ですので、我々のように時間がある高齢者を対象にしてはじめる、あるいは小学生・中学生に正しい認識を伝えていくという機会を作ってもらえれば良いのかなと思いました。

田邊主査：ありがとうございました。私たちは、ごみを出すと、その後どうなるのだろうと気に掛けることが少ないと思います。私自身もこの担当になって、こうなっているのだと学ぶ機会がたくさんあります。皆さまにも同じような機会を提供することで意識が高まっていくのではないかなと思っております。あとはリサイクルですが、熱エネルギーで回収される考え方もまだ知られていない内容かと思しますので、表に出していくことも私たちの役目ではないかなと思っています。

小室委員：私はみやしろ大学を受講しました。いきがい大学も春日部校で受講しました。あと、環境大学でも環境関係の話を受けましたけれど、公務員の方が行う講座はごみ回収するというのは、こういう条例に基づいて集めますという内容が8割位を占めます。そして質問があっても、ほとんど答えられないというのが講義の内容です。私は神戸市民大学の講師もしましたし、消費者団体の講師もしたことがあります。要は、集めてから先どうするのかという話はほとんどの方が知らない。ただし、宮代町というのは久喜市にウィズウェイストジャパンというガラスのリサイクル工場があります。ウィズウェイストジャパンはペットボトルのリサイクル工場を日本で初めて作った会社です。そのような会社が久喜市にあります。例えば、ガラス、缶を見るだけでも、衛生組合の研修で缶の工場は行きました。ペットボトルに関しては創設の時に見ました。ガラスの工場はしょっちゅう行きました。そのような場所を見るだけでも大分違いますし、私は出前講座をするのであれば、私が講師になって話した方が良いのではないかなと思います。例えば、ガラスを作るにはどうするのですかと聞かれても普通は分かりませんよね。今ガラスは3色で分別していますね。それはなぜかということ、透明なガラスに他の色が入ると、茶色なら茶色のスジが入ってしまい、商品にならなくなります。ですから、透明なガラスなら透明なガラスで分別をします。それからなぜ、

ガラスはリサイクルした方が良いのか。砂から、つまりバージン燃料から作ると1, 600℃必要です。しかし、一度それが溶けると、次にガラスになる温度は1, 200℃です。1/4違いますよね。アルミというのは、ボーキサイトから作ればよいのですが、日本みたいに電力が高い国ではどうしようもないので、以前はオーストラリアからリサイクルされた缶を輸入して日本で精錬して缶を作っていました。最近は缶の需要が減ってそれ以外の需要も減ってきたので、反対にインゴット（精製した金属の塊）を東南アジアに輸出している国になりました。スチールというのは、アルミ缶と一緒にまとめて回収してコンベアの裏に磁石を付ければ回収出来ます。ただし、スチール缶には戻りません。アルミは100%アルミに戻ります。ではスチールは何になるかというと、鉄筋コンクリートの鉄筋です。その3つは間違いなくやっているわけです。ペットボトルもやっと自前でやり始めましたけれど、まだ半分もリサイクルにっていないのではないかなと思います。なぜかという、リサイクル原料が高すぎるのです。人の手が入れば入るほど高くなります。紙もそうです。再生紙は高いです。廃棄物を集めてきてリサイクル原料を作る。原料を作って終わりではないです。それが市場で使われて再び製品となって初めてリサイクルです。この点について、どうなっているのかが全く分かっていないのが、今のリサイクル教育の現状です。いかに皆さんに聴いてもらうかというのが、講師の大事なところであって、今のリサイクルの講座では、回収の話が主になっており、そこから先の重要なところの説明が出来ていないと思います。

田邊主査：講座の内容が集めるところで終わってしまっているの、最終的なところまできちんと説明する講座が行われると良いのではというご意見でした。あとは専門家の方のお力を借りながら良い講座作りが出来ればよいかなと思います。

両宮会長：私からもひとつ。一般ごみは町が集めるのですが、後は家庭の生活で考えると家電のごみはどこに行くのかとか、町の収集ルートとは異なりますけれど、使い終わった家電はどこに出している。何も知らないまま恩恵を受けているというのもおかしいかと思いますので、そのような知識も含めて講座になると良いかなと思います。あとは若い方が興味を持たないという問題があるのですが、大学で学生に聞くと、フードロスが一番関心が高いですね。スーパーでアルバイトをしていると、これは捨ててくださいと言われるわけですね。もったいないと思いつつながら、持ち帰りも出来ない。そして捨てられてしまう。これで良いのかという気持ちを持っているわけです。最近、フードロスという言葉はよく聞く言葉で非常に関心が高いです。これをひとつの切り口にして、若い方も興味を持って講座にきてもらえるのではないかなと思います。

横尾委員：皆さまのご意見を聞いて、非常に感心しております。出前講座をやってその後、どう活かせるかということは、個々で考え方が異なるので、違ってくると

と思いますが、体験をしながらの講座も必要ではないかなと思います。式田委員と私は同じ町内会なのですが、今月の30日から集会所で草刈りをやっています。大体年に5回位ですね。1回に45ℓの袋が40個位出ます。そのごみを持ち帰って処理しているのですが、草刈りをして疲れて、またそのごみを持って帰る。これは大変なことだということで区長が提案されたのが、堆肥をやることです。発酵させるための米ぬかを使って堆肥を作ろうとしています。言葉だけではなくて、実際の体験をしていくのが大事だと思います。私は、以前から思っていたのが、農家の高齢化、ヨシが出たり、柳がでたり、そういう田んぼがずいぶん見られます。その対策としてネギを育てているところもあります。どうしたら良いかということも私も考えてきたのですが、ある会社の人に、外来物とか新芽とかを、全部、紙や布に出来る機械を開発したよと言われました。プラスチックも非木材であれば、出来るようになっていると。埼玉大学の先生にお願いをして製品化を試みているとのこと。こういったことが進んでいって時代が変わっていくと、食品の変化があると思います。昆虫の変化で言うと、例えば蚕。蚕は桑の木が必要です。そうすると、農家の人たちに桑の木を植えて、蚕を飼って、幼虫を色んな料理に入れると健康面にも良いですし、リサイクルの形も違った形が出てくるのではないかなと思います。こういうことも将来的に考えていかななくてはいけないのかなと想像しました。以上です。

田邊主査：ご自身で色々体験すると身に付きやすいと思いますし、両宮会長からもあったように、学生さんがアルバイトで実際フードロスの現場を見ていると、実体験に基づくものは気付きが出てくるので、体験することは大事だと思います。また、今後私たちが昆虫食にお世話になる日も遠くないかもしれません。実際にコオロギせんべいのような商品もあります。

小島委員：事業系ごみで、ごみを出す担当をしていました。事業系ごみ、収集・運搬、中間、最終処分場とあるんですよ。法的には全部、ごみを出したところが責任を持って確認しなければならないのですが、実際は出来ていません。業者で、一か所、福島におむつを出しているところがあるのですが、そこに行って、搬入する事業者を集めて説明をします。本来ならば出したら最後までどうなるのかというのを見なければなりません。分別はしますけれど、その後どうなるかを知りません。県の最終処分場がありますよね。もう一か所は別の県に持って行っています。二か所か三か所。それも我々はどうなっているのかと知らないです。福島の山の上に事業所を作っているのですが、そういう環境の良いところに最終処分場があるんです。そこで、燃やして処分しているのです。その辺が最初から気になっていたんです。ごみを最終的にどこに持って行っているのか。事業所の

ごみは保健所から指導されているのですが、我々が一般に出したごみはどうなっているのか。場所によっては山の中に運んでいって処分しています。そうすると、生態系を崩しているのは我々です。くまさんが大変だから、どんぐりを集めてどんぐり銀行という話ありましたよね。なぜあれをやめたかという、生態系を崩すからです。日本全国から集めると崩れるということです。人間の活動が生態系を壊している。我々人間は動物より上だと言われてはいますが、本当にそうなのかというところがあります。以上です。

田邊主査：私たちが商品を購入して使うところから責任が発生していると思います。本当にそれを最後まで見届けるといことは必要なことだと思いますので、今後講座を取り扱う際には、そういったことも気にかけて取り組めたら良いなと思います。

神田委員：主婦として、びん、カン、ペットボトル等の正しい出し方に疑問を感じています。リサイクルと言われて、きれいな水で洗って出しているけれど、これって正しいのかなと疑問に思いながらも出しています。これが宮代町の歳出、歳入にどのように繋がっているのかというのが、衛生組合だよりや広報に載っているのかもしれないですが、数字が大きすぎてピンと来ないです。この間の委員会の時に、有償、逆有償を教えてくださいました。そういう風になっているのだなと分かったら、出し方を意識して気付けることが個人であると思います。大きな数字ではなくて、具体的な小さな数字を教えてくださいましたら良いなと感じました。合っているかわかりませんが、ペットボトルを出して、逆有償なら、じゃあいいかなと気が緩んでしまうなど、難しい部分もありますが。

小室委員：ペットボトルが有償というのは、ペットボトルを出すとお金を貰えますよと。ガラス瓶が逆有償というのは、ガラス瓶に1円払って出しますよというのがあります。

神田委員：そうですね。それを聞いたから分かりますけれど、知らないでリサイクルという言葉で一括りにしてしまいますので、そういうことを講座で教えていただくと意識が変わるかなと思います。

小室委員：アルミ缶というのは、一缶2円～1円位のお金が入ってきます。だから、皆さん集めてくるし、ペットボトルというのは、八甫地区ではラベルもキャップも外し、洗ってきれいな状態で集まってきます。ところがそれ以外のところは、ガラスもカンもペットボトルもラベルが付いている、いないに関わらず、集まっていますので価格は半分以下ですし、ラベルが付いているのが全体の3割位あるというのが、この間の会議であったかと思えます。久喜市の新しい焼却炉になったら、燃やすという形でプラスチックを分別から除外するのであれば、その分を何かプラスアルファしましょうと。ですので、八甫のようにペットボトルを洗った状態で出せば、倍の価格で売れます。そういうことを条件につけたらどうですかと、

私は最初から申し上げているところです。

両宮会長：時間もありますので、この辺で議論を次に進めさせていただければと思います。

田邊主査：ありがとうございました。私たちには無かった視点も色々とお聞かせいただきました。

両宮会長：それでは開始から1時間経過していますので、5分間の休憩をいれます。

-休憩-

田邊主査：それでは5分経過いたしましたので、再開させていただきます。今ご覧いただいた個別取り組みシート（資料2）の表面について意見をいただきました。その裏面に、新規の取り組みということで、事前にいただいたご意見があります。時間の都合上、事務局から説明させていただきます。

・資料2（裏面）について田邊主査から内容説明

（4）施策検討シート（施策1（4））

・資料3について三反崎主事から内容説明

小室委員：衛生組合の方にお聞きしたいと思います。減量推進員をやっていて困ったのが、今、スーパーでレジ袋を受け取らなくなってきたでしょう。そうすると、緑と赤の袋は買えば良いのですが、要はプラスチック資源を赤い袋に入れると持っていかれず何週間も置かれてしまったということがあります。恐らく、緑と赤以外の袋を買わなくなると、ゴミ袋が正しく使われないという問題が出てくる可能性があるのかなと心配していますが、組合として何か対策はされていますか。

鈴木課長：レジ袋は、昨年7月1日から有料化が施行されて、その影響でレジ袋はいりません。とお断りする方が増えました。この影響でご家庭に使い勝手の良い袋が入る機会が無くなって、燃やせるごみに比べて、使用頻度の少ない燃やせないごみの袋を使ってごみ出しされているのかなと推測しております。実際に袋自体は燃やせないごみの指定袋なので、それ以外のごみ出しということは収集の対象になりません。どうしても袋の問題で残ってしまうということであれば、ご相談いただければと思います。

小室委員：ということは、その指定袋を作るということは考えていないということですか。

鈴木課長：おっしゃる通りです。今現在販売している、燃えるごみ、燃やせないごみの2種類の指定袋以外について、衛生組合が業務を担う間は変更の予定はございません。

山根委員：布おむつ使用の推進というのは、今後、推進していくのでしょうか。

三反崎主事：布おむつを前面に出して推進するというよりは、様々なリデュース・リユースの方法のひとつとして推進していくと考えております。

山根委員：そうですね。私も子育ての時に、紙おむつが出てきて、こんな便利なものがあるのだなと思いましたが、今、実際に介護をしていて、紙おむつを活用しています。企業でも紙おむつに対しての取り組みがなされていると思います。今のお母さん世代は、生活様式や環境も違ってきています。そこで布おむつを推進すると、反発もあると思いますから心配になりました。

唐澤委員：レジ袋について、4年前にも会議で発言したのですが、自分のマイカーで2km先のコンビニなり、スーパーに買い物に行って、往復で4kmですね。そうすると、レジ袋56枚分のCO2が出ます。本当にレジ袋を有料化にして効果があるのかどうか、誰かが儲けているのではないのでしょうか。また、スーパーではマイバックの使用が増えたことで、万引きが多くなって、非常に利益が少なくなったという意見もあります。また、今は岸田政権に変わりましたね。動きとしては、レジ袋をまた無料化にすると。マイバックを作るのにどのくらいの燃料を使うのか、ましてや今はコロナ過でマイバックを使用し続けていると、我々飲食店としては衛生的に危険度が増えるわけですね。しょっちゅう洗うわけにはいきませんからね。その辺はどうなんでしょうか。レジ袋は石油で出来ていますから紙と一緒に投入すれば燃料としても良いと思うのです。ユニクロでも最近では紙袋までお金を取りますね。これはもう異常です。

小室委員：それは国が決めたことですから。

唐澤委員：それは分かるのですが、今コロナになって年収180万円以下で働いている労働者が1千3百万人いるのです。そして半分が税金で持っていかれます。そういう状態で若い人に、そういう意識を持つといっても、なかなかそうはいきません。生活がかかっていますから。生活も出来ない、結婚も出来ない。マイホームを持つことも出来ないし、我々の青年時代とは違うのです。今の若者は大変なんです。負担をかけすぎです。給与も23年間上がっていませんから。諸外国に比べるとひどいものです。我々国民が分別されているような状態です。職員の方は大変だと思いますけれど、日本の置かれた状態を理解して環境問題を進めてもらいたいと思います。あと前回の私の発言で会議録の3ページですね。食料を海外から輸入している数字は36%とありますが、逆です。63%です。戦争とか、災害とかがあると自衛隊が9~10%、食料を確保しますので、残り26%位なんです。昔と同じで配給制度になるかもしれません。以上です。

小島委員：布おむつ推進は残して良いのではないかなと思います。タオルが2つあれば布おむつが出来ます。布おむつが無ければ、バックアップとして布でカバー出来ます。もう一つ防水面については、ラップなどで対応出来ます。肌にあたる場所だけ布にすることが出来ますね。企業の宣伝はしたくないですが、布おむつを回収し

でもう一回おむつにするというサービスがあります。ただ、回収の仕方がスーパー等の色々な回収BOXに入れるのですが、全国的ではないだろうし、衛生面はどうかかというところもありますので、出した方が全部処分してと言いたいんです。利益重視で使い捨てして、残ったごみを我々の税金で対応するというのは妥当なのでしょうか。儲けているところが、最終的に責任をもってリサイクルしてほしいなと思います。批判されるかもしれませんが、我々は、なぜ税金を出したり、ごみを分別収集しなければならないのかと思います。布おむつを再生利用している会社があります。布おむつは自分の家で洗って再生利用出来るけれど、紙おむつは出来ません。洗って乾かして使えないこともないかもしれませんが。例えば、無くなった場合は布きれやタオルがあれば出来ないこともないです。

雨宮会長：布おむつのことに関しては、残す、残さないということではなくて、集約するので、どちらにおいても大きな意義はありますから、この辺で留めておきたいと思えます。私からの質問ですが、脱使い捨てを推進する項目というのはどこにありますか。これから議論される項目追加されるのでしょうか。

三反崎主事：こちらは2Rを4Rに今後変更をしていくのですが、その中のひとつの取り組みとして脱使い捨てを推進する項目を新たに設けます。その項目に集約する内容を見直し案の欄に記載いたしました。

雨宮会長：それはこの表には入っていないんですね。

三反崎主事：はい、今の表には入っていません。

雨宮会長：分かりました。リデュース等についての議論が少ないかなと思います。皆さんでリユースを広めていかないと、ごみは増えてしまいますので、その辺の議論を新しい項目として行いたいと思います。

小室委員：リユースで利用率が上がっているのが、量的には減っているのですが、インスタントコーヒーです。昔はガラス瓶だったのですが、今は紙で詰替えて使うのが主流になっていますね。ですから、コーヒー容器がリユースされています。あと、シャンプー、リンスのような容器もリユースされています。詰替えてますね。逆に減ってきているのがビールですね。お酒はワンウェイに変わってきていますね。

雨宮会長：現状は分かります。では、これから増やしていくにはどうしたら良いのかを議論していきたいですね。

小室委員：詰替え容器を、家に何種類も置いておくスペースがあるのかということですね。それと、洗ったりするのが面倒な場合がありますね。あとお酒の一部ではピンを持って行ってワインを買ったりすることがありますが、数に数えるほどしかありません。一部ではリユースはされていますが、例えば、洗う・乾かすということに対しての安全性は業者だと出来るけれど、我々だと出来るのかというと難しいところです。口に入るものはリユースが難しいですね。インスタントコーヒ

一だと粉ですから、なんとかなるかもしれません。それとストックするスペースが狭いということもあります。リユースするものと価格的に変わらないと1回、2回は詰替えをするかもしれないが、それ以降は難しいかもしれないです。食品では粉末以外は難しいのかなと感じます。

小島委員：昨日のNHKで小学生か中学生の新聞紙を使った取り組みが表彰されたとありました。生ごみがついている皿はそのままだと、こびりついてしまうけれど、新聞紙で拭くというものです。あと、新聞紙を小さくして、少し濡らしたものを床にまいて掃除をしたり、窓ガラスも新聞紙で拭けばきれいになる。万能な紙なんですよ。しかも買わなくて済む。捨てるのも罪悪感が少ないです。少しかさばりますが。少し気になるのが、洗剤やシャンプーの化学洗剤を使うと川・海が汚染されてしまいます。下水のところで泡がたっているのを見るとぞっとします。我々が川・海を汚染する役割をしていると思うと怖いんです。昔は石灰とか砂を使って洗っていたんですけど。なるべく減らすとよいですね。私は詰替え容器もそのまま使ってしまう。詰替えるのが面倒なので。あとは、なるべく薄めて使うようにはしたいと思っています。

三反崎主事：ありがとうございます。様々なご意見をいただきました。以前の取り組み検討シートでも2Rについて議論していただいた内容もございますので、一旦この内容につきましてはここまでとさせていただきます。

田邊主査：それでは時間になりましたので、本日残った議題については次回の委員会で検討していきたいと思えます。

雨宮会長：残った議題は次回ということですね。それではその他の連絡事項をお願いします。

6 その他

(1) 今後のスケジュールについて

第7回 令和3年11月17日(水) 14:30

宮代町立図書館 研修室(→進修館 大ホールに変更)

第8回 令和3年12月23日(木) 14:30

宮代町役場 202会議室

(2) その他連絡事項など

田邊主査：本日、皆さまのお席に食品ロス関連でご案内の紙を用意させていただきました。

1点目が現在、町と社会福祉協議会で、生活にお困りの方に食品をお配りするフードドライブ事業を実施しています。その食品を持ってきていただく場所として、このすてっぷ宮代の入り口と、役場1階の福祉課窓口に青いコンテナをご用意

意してございますので、もしご協力いただける方がいらっしゃいましたら、よろしく申し上げます。先ほど社会福祉協議会の方に伺ったのですが、現時点で集まっている食品の重さは、103.6kgです。お米については、1tを超えた量を寄付していただいているとのこと。皆さまにもご協力いただけましたら幸いです。そして2点目ですが、消費者庁、農林水産省、環境省で食品ロスの対策のひとつとして「すぐに食べるなら手前を選ぶ、てまえどり」を推進しています。コンビニ等で掲示してあるのをご覧になった方もいらっしゃるかと思います。ぜひ私たちが出来ることの一つとしてご協力いただければと思います。

雨宮会長：その他の項目は以上でよろしいでしょうか。それでは本日の議事は終了ということになりますので、議長の座を解かせていただきます。

7 閉会

山崎副課長：それでは以上を持ちまして会を閉会いたします。閉会にあたりまして、吉田副会長からご挨拶をいただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

吉田副会長：長時間にわたり活発なご意見をいただきましてありがとうございます。お疲れ様でした。また次回に向けてさらに活発な意見が飛び交うことを期待しています。本日はありがとうございました。